中央労福協ニュース No.88
NEWS LETTER

労働者福祉中央協議会（中央労福協）
発行人　大塚　敏夫
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-8 中北ビル5Ｆ
TEL 03-3259-1287 URL http://www.rofuku.net

第12回三役会・第6回幹事会を開催

10月30日、第12回三役会と第６回幹事会が明大紫紺館で開催され、11月29日の第61回定期総会に提案する議案の審議を行った。

古賀会長（写真右）は幹事会冒頭の挨拶で、この間の台風をはじめとする自然災害で被害に遭われた方へのお見舞いを申し上げるとともに、先ごろ行われた連合定期大会で確立された運動方針と「ストップ・ザ・格差社会」のスローガンに触れ、「経済のグローバル化の進展、そして未だかつて経験したことの無い超少子高齢・人口減少社会を迎え、今までの経験則や価値観では先が見通せない状況にある。特に政治と経済を巡っては、いわゆるアベノミクスのためか、社会を覆う気分はなんとなく右肩上がりだが、それは一部の都市部での気分であり、地方は決してそのような状況ではない」と指摘した。さらに「生活者にとっては生計を圧迫しているのが実感であり、現在、成長戦略の名のもとに、労働法制・雇用ルールの改悪など、やってはいけない規制緩和に向けて、大きく舵を切ろうとしている政権が日本社会を動かしている。世論を喚起する運動を起こしていかなければならない。労福協もさまざまな歴史を持つ組織が結集しているが、互いに違いを際立たせるのではなく、互いに共通項を見出していく運動を進めていきたい」と訴えた。

このあと、2014 ～ 2015 年度活動方針案・総会スローガン案、2014 年度予算案を協議し、総会議案として確認した。（活動方針については本ニュースレター号外で会員討議資料として配布）。また、総会で選出する役員を推薦するための役員選考委員会を設置し、幹事会終了後に第１回の選考委員会を開催した。

無縁社会を乗り越えろ！ 第 33 回全国クレサラ・ヤミ金被害者交流集会 in 仙台が開催

10月27～28日、「第33回全国クレジット・サラ金・ヤミ金被害者交流集会」が、同実行委員会、クレサラ対協（全国クレジット・サラ金問題対策協議会）・被連協（全国クレジットサラ金被害者連絡協議会）の主催により仙台市で開催された。

集会は「無縁社会を乗り越えろ！ 復興に向けて！」をテーマに、被害者や市民団体・法律家・研究者・行政・社会福祉関係者など約500名が参加した。

26 日は東北大学を会場に開かれた 16 の分科会では、社会問題化してきている奨学金問題やブラック企業対策等の新たな分科会をはじめ、生活困窮者自立支援のあり方、セーフティネット貸付、生活保護、震災と貧困、自殺対策、女性・子ども・ひとり親家族の貧困やギャンブル依存症にネット被害対策など、多様なテーマの現状報告と具体的な対策について、中央省庁や自治体関係者も交えて議論が展開された。

27 日の全体会の来賓あいさつでは、消費者庁で長官に次ぐ立場にある同庁・山崎史郎次長（前厚労省社会援護局長）が前職の経験を踏まえ、消費者行政の課題に加え、生活困窮者自立支援の取り組みの意義と社会的包摂の必要性について語った。

記念講演では、ＮＨＫスペシャル「無縁社会～無縁死３万２千人の衝撃～」（菊池寛賞受賞）の製作に携わり、現在ＮＨＫ大型企画開発センター・チーフプロデューサーの板垣淑子氏が「無縁社会を乗り越えろ」と題して講演。板垣氏はこれまでにも「ワーキングプア～働いても働いても豊かになれない」「終の住処はどこに～老人漂流社会」（2013 年）など、現状を「自己責任」とあきらめ声を上げることのできない孤立と貧困の実態を、取材と報道を通して伝えてきている。講演では社会的孤立の衝撃的な事例を多く紹介し、誰もが当事者となる問題と指摘した。

集会は最後に、生活保護制度の改善と奨学金制度の抜本的な改善、増加傾向にある若年層自殺の詳細な分析に基づいた自殺対策の充実を求めるなど７項目の集会宣言を採択して２日間の日程を終了した。

人間らしい生活と労働の保障を求めて、つながろう！

反-貧困 ANTI-POVERTY CAMPAIGN 全国キャラバン2013

私たちの町をもっとやさしい社会にするために

長野

東ルートの全国キャラバンは10月13日長野に引き継がれ長野駅前、上田駅前、ジャスコ佐久平店前で街頭演説・チラシ配布署名活動などを行った。

14日は松本駅前で前日と同様街頭宣伝活動と、松本駅前会館で約100名が参加して長野県集会を開催した。基調講演はブラック企業にどう立ち向かうか、労働、教育貧困運動をつなげる視点と題してＮＰＯ法人ＰＯＳＳＥ代表の今野晴貴氏が講演、新興企業における若者の劣悪な労働環境について労働相談から事例を交えて話をされた。リレートークでは生活保護一斉審査請求及び社会保障制度などに関する国の動きについて、ながの若者サポートステーションを利用する若者の状況、学生の就職における困難の状況についてそれぞれ代表者から報告された。

15日は上諏訪駅前、上伊那いなっせ前、飯田駅まえで街頭宣伝活動を行い３日間のキャラバンを終了し、次の開催県、愛知にバトンタッチをした。

10/13街宣活動した皆さん

松本駅前会館の長野県集会

静岡

今年の反貧困全国キャラバン静岡行動は「生活保護支援ネットワーク静岡」が事務局を担当し、10月20日～22日に於いて静岡県内で展開された。県労福協は財政面と各イベントへの動員、キャラバンカーの運行でサポートを担当した。

今年の行動では、「奨学金問題を考える」シンポジウム（静岡文化芸術大学/浜松市）、「静岡大学で憲法前文を叫ぶ」として「活憲の時代」（右下）伊藤千尋氏の講演を開催するなど啓発活動に重点を置く取り組みとなった。

奨学金シンポジウムでは奨学金利用者からの体験談報告、奨学金問題対策全国会議事務局長の岩重佳治氏の基調講演、大学生の活動紹介など中身の濃いシンポジウムを開催、また、シンポジウム終了後には県司法書士会の個別相談会も行われた。

県労福協は苦学生への奨学金支援（地域役立資金の活用）をしているが、大学生の半数以上が利用している日本学生支援機構の奨学金について十分注視していく必要が有ると考える。

埼玉

11月３日、前日に山梨県実行委員会から引き継がれた「反貧困全国キャラバン2013」は、３日に所沢駅東口、南浦和駅西口、南越谷駅東口で実行委員会に参加する各団体からの参加者による宣伝活動で始まった。

11/3所沢駅東口での宣伝

４日は、午前10時から浦和駅西口での宣伝を行った後に、北浦和エアーズに会場を移し、「映画&ライブ&トークセッション」を開催した。

①映画は入江監督の「SRサイタマノラッパー」
②ライブは「THE FAST BOYZ」による歌と演奏
③トークセッションは「今野晴貴（NPO法人POSSE代表）×栗田隆子（働く女性の全国センター）×堅田香織里（反貧困ネットワーク埼玉）」

翌５日は、熊谷駅北口において埼玉県実行委員会としては最後の駅頭宣伝を行い、その後宣伝車を群馬県実行委員会に引き継いだ。

今、なぜ「反貧困」なのか？ 何が若者を貧困の連鎖に引きずり込んだのか？

埼玉の「反貧困運動」は、「キャラバン」で終了ではなく、このキャラバンに結集した力で継続していく。

鳥取

鳥取県では11月2日、島根県より街宣車を引き継ぎ活動を開始した。

鳥取県に入ったキャラバンカー

昨年に引き続いた反貧困全国キャラバンのため、実行委員会は昨年のメンバーを中心に活動を計画、活動は新たに弁護士、司法書士への呼びかけを行い、多く参加された。

境港市・米子市・倉吉市・鳥取市へ要請書を提出し、鳥取市では福祉担当課（生活福祉課）と「●市の生活保護動向●国の進めている生活保護制度の見直しと生活困窮者対策●鳥取市が始めた自立支援策（社会的な居場所づくり支援事業）等、について説明があり現状」など確認し合いながら、意見交換を行った。

報告：反貧困キャラバン2013鳥取県実行委員会
委員長 弁護士 房安 強

鳥取市との意見交換

山梨

「反貧困全国キャラバンin山梨」は、弁護士会・司法書士会を中心に結成され、労福協も実行委員会のメンバーとして、街宣行動を中心とし、30日朝、甲府駅前において、「人間らしい生活と労働の保障を求めて、つながろう!」と貧困問題を訴えながらビラ入れを行った。

甲府駅前の街宣行動

山口

格差と貧困が拡大する中で、「人間らしい生活と労働の保障を」求めて、反貧困全国キャラバンin2013（山口県は10月20日～22日までの３日間）が展開された。この取り組みは昨年に引き続き３回目の実施になる。「反貧困全国キャラバン全国実行委員会」の呼びかけ団体である中央労福協の要請に基づき、県労福協は21日、労金・全労済・県労福協と県弁護士会の実行委員会メンバーで、防府市及び山口市の社会福祉事務所（健康福祉部）に対して要請行動を行った。これに対し市の担当責任者は「今回の要請内容と同趣旨ものが議会でも取り上げられている。（防府市）要請について真摯に対応していきたい。（両市）」、また“パーソナル・サポートセンターやまぐち”の事業との関係について、「今後も情報交換を行うなど引き続き連携を図っていきたい。（山口市）」と述べた。その後山口市デパート前で街頭宣伝とビラ配布を行ない、市民に対し取り組みに対する協力の呼びかけを行った。

山口市デパート前の街頭宣伝

島根

10月25日10時より松江市内においてキャラバンカーの街宣運行をした。午前中に政党県本部（自民党、公明党、民主党、社民党、共産党）を訪問し、行動の趣旨を伝え協力要請を行った。午後からは、島根県庁の障がい福祉課長、地域福祉課長に面談し、要請趣旨を説明し、要請書を提出した。

その後、島根県議会事務局を表敬訪問し、16時に鳥取県にキャラバンカーを引き継いだ。

島根県に入ったキャラバンカー

みんなで助け合う安心社会に向けて 西部労福協第32回研究集会を開催

11月７日から二日間、山口市の「ホテルかめ福」にて西部労福協第32回研究集会を、中四国九県労福協及び事業団体より110名が参加して開催した。

冒頭、西部労福協を代表して間嶋祐一西部労福協会長、地元労福協を代表して中野威山口県労福協会長より挨拶があり、山口県及び山口市より祝辞を頂戴した。

特別講演・笑いのススメ

■一日目、経済と福祉について講演

講演１では「アベノミクスと地域経済への影響」と題し、山口大学大学院教授稲葉和也氏が、今、進められている経済政策の三本の矢について分析を示し、その脆弱性を具体的に指摘、真に必要な政策は持続可能な社会を目指すことであり、若者の雇用や子育て支援など次世代を担う層に政策を集中させることが必要であると説いた。

講演２では社会福祉士と精神保健福祉士のキャリアを持ち京都市の福祉現場で働く富井宏美氏が、「信頼が生み出す力」と題し、福祉現場の経験をもとにした実践報告された。

■二日目、全労済の事業報告と笑いヨガ、PSC報告

冒頭に全労済西日本事業本部の延永尚任室長より、東日本大震災や続く台風などの自然災害に対する取り組みについて、労働者福祉運動を進める事業団体としての事業報告がされた。

特別公演「笑いのススメ」では、笑うことにより健康を守り、生活を豊かにしていく「笑いヨガ」の講演で、レクレーションコーディネーターの長谷英治氏の指導で参加者が入り交じりそして輪になり、会場は大きな笑い声に包まれた。

最後の講演は、パーソナルサポートセンターやまぐちの総括相談員の河杉知治氏の生活困窮者自立支援モデル事業についての報告を受け、二日間の研究集会の日程を終了した。

第23回新潟県勤労者駅伝大会

９月21日、秋晴れの下、連合新潟・労福協主催の第23回新潟県勤労者駅伝大会がサッカーＪ１新潟アルビレックスの本拠地・ビックスワンスタジアムで開催された。今大会は、過去最高の96チーム（880名）が参加し、日頃、鍛えた健脚を競う熱戦が繰り広げられた。

大会は、齋藤実行委員長の挨拶に続き、来賓として新潟県労政雇用課・高橋課長祝辞の後、総合生協女子アスリートチームの新社会人女性２人による清々しい選手宣誓を受けた。

その後、スタジオキャンドルの可愛い女の子たちのチアダンスでムードは一気に盛りあがり大会実行委員長の号砲でスタートした。

東日本大震災以降、様々な形による助け合い、支え合いが共感を生んでおり、伝統の勤労者駅伝大会は、各チームの「たすき」に団結と連帯、そして、きずなをつなぎあう大会となった。

駅伝96チームのスタートライン

2013冬・福島応援隊～福島発！旬の味！

11月６日、福島県よりコープふくしまとＪＡグループ（新ふくしま・伊達みらい・あいづ・中央会）各役員の皆さまが中央労福協を来訪、「2013冬　福島応援隊『福島発！旬の味！！』」（同県産りんご、柿などのギフト）の協力要請が行われた。これは2010年より活動を開始した、福島県労福協も参画する「地産地消ふくしまネット（地産地消運動促進ふくしま協同組合協議会）」の取り組みで、今夏に続き中央省庁・関係全国団体などへの要請の一環として中央労福協を訪問された。中央労福協・大塚事務局長は、引き続いての地方労福協への紹介・協力要請を約束した。

中央労福協を来訪された皆さんと

中央労福協では東日本大震災が発生した2011年以降、福島県労福協のよびかけを受け、2013年冬までに夏と秋・冬の計6回にわたり各地方労福協の協力のもと福島県産果実［夏（桃）と冬（りんご）など］の紹介・普及の取り組みを重ねている。今夏の取り組みでは労福協取扱数が全体の約1割に上り、訪問団の皆様からは感謝の言葉が寄せられた。今季は、サンふじりんご、会津みしらず柿、蜜桃ジュースなどを取り扱う。

ご注文・お問い合わせは地産地消運動促進ふくしま協同組合協議会（福島県生活協同組合連合会内）TEL. 024-522-5334へ（11/30まで）